

『つながる支援』

～発達的气になる子どもの支援～ (療育施設の実践から)

児童発達支援センター

仙台市サンホーム 菅野 淑江

1. 仙台市の療育支援体制と 児童発達支援センター

わが国の障害者支援の基本理念

(1) 障害のある子ども本人の最善の利益の保障 (こども支援)

・・障害種別にかかわらず、子ども本人の意思を尊重し、子ども本人の最善の利益を考慮して支援を行う

(2) 地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進と合理的な配慮 (こども支援・地域支援)

・・子ども一人ひとりの障害の状態及び発達の過程・特性等に応じ、合理的な配慮を行う

子どもが地域の子どもたちとともに成長できる

(3) 家族支援の重要性 (家族支援)

(4) 障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)を子育て支援において推進するための
後方支援としての専門的役割 (地域支援)

仙台市における障害児者支援

- 障害があっても **その人らしく暮らせる社会の実現** へ向けて、関係機関との連携・協働を進めている。
- 仙台市発達相談支援センター(アーチル)の開設(平成14年)
- 本人の願い(ニーズ)を中心にチームで連携・協働しながら支援し、自ら問題解決に向かう力をもてるよう支援
- **子どもから成人まで途切れない支援**をするために連携・協働が大切

(縦につなぐ、横につなぐ)

その人がその人らしく暮らすとはどう
いうことか？

「穏やかで暮らしやすい青年に」

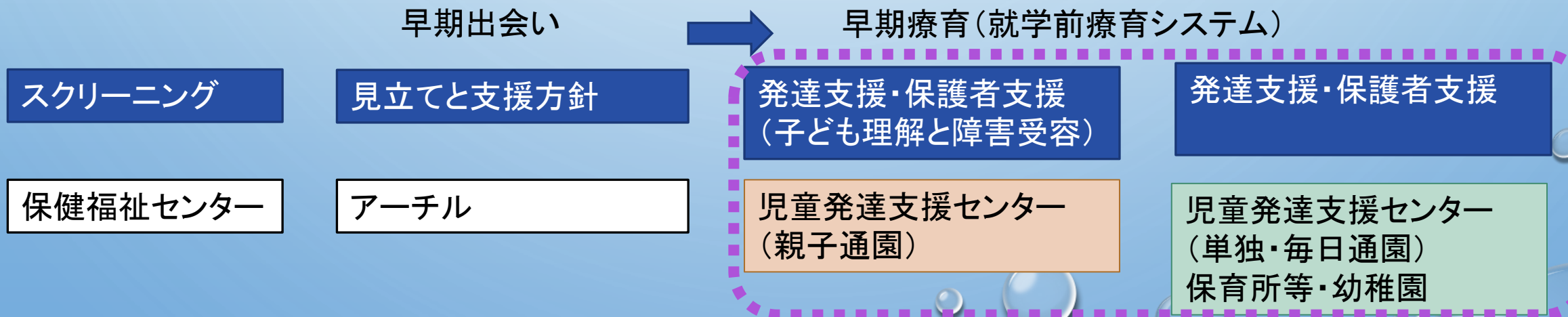


参考
アーチル研修資料

児童発達支援センター

参考 仙台市発達相談支援センター資料

- 仙台市内2か所の旧「知的障害児通園施設」と9か所の旧「親子通園施設」が平成24年4月児童福祉法改正により名称変更し、11か所を「児童発達支援センター」と位置づけ。
- 地域支援相談員を配置
- 【療育】 在宅の障害のある幼児が通園し、発達援助や生活指導を受ける。保護者への療育支援を行う。
- 【地域支援】 上記に加え、通園児以外の地域の障害児（またはその疑いのある児）とその保護者の相談支援、在籍先（幼稚園・保育所等）の施設支援を行う。



児童発達支援センター (親子通園)

- ◆ 市内9か所
- ◆ 立町たんぽぽホーム・なのはなホーム・西花苑たんぽぽホーム・あおぞらホーム・田子西たんぽぽホーム・上飯田たんぽぽホーム・大野田たんぽぽホーム・袋原たんぽぽホーム・サンホーム
- ◆ 主にアーチルの初期療育を経てから所属する場合が多い
- ◆ 週に2～5日、親子で通所
- ◆ 併行通園(保育所・幼稚園に所属しつつ利用)は行っていない
* R1.9～モデル事業
- ◆ 卒園後、地域の保育所・幼稚園、または通園施設へ通う場合が多い

児童発達支援センター (単独・毎日通園)

- ◆ 市内2か所
- ◆ なかよし学園(宮城野区鶴ヶ谷)・なのはな園(太白区郡山)
- ◆ 毎日、単独で通所
- ◆ 定員各30名
- ◆ 4歳以上がほとんど。
- ◆ 小学校入学まで所属する児が多く、卒園後は特別支援学校や地域の小学校の特別支援学級に通うことが多い



療育等支援が必要な対象者の動向

アーチル相談件数の増加

(新規・継続ともに増加)

【新規相談件数】

(H14開所時より)

- ・ 乳幼児 1.4倍
- ・ 学齢期 2.6倍
- ・ 成人期 4.4倍

相談の現状と課題

(乳幼児期)

- ・ 相談時点で保育所・幼稚園に在籍(初期療育を経っていない)
- ・ 養育力の低下、DV・虐待対応の難しい家庭の増加

(学齢期)

- ・ 障害の判断が難しい新規相談の増加
- ・ **虐待や触法、不登校問題がいくつも絡み合うケースの増加**
- ・ 重度の知的障害を伴い、自傷他害やパニック等行動障害を二次的に発生
- ・ 知的遅れがない発達障害者の福祉サービス利用希望の増加

(成人期)

- ・ 就労継続困難から発達障害を心配し、来所する新規者の増加
- ・ **触法、長期引きこもり、家庭内暴力、精神科系疾患併発等、複雑なケースの増加**
- ・ 医療的ケアを要する重症心身障害児などの住まいの場の確保や支援者養成

アーチル相談歴のある児童の割合約10人に一人(小1~18歳)

★成人期の問題からわかったこと

認められ、自信が持てる、自分の意思が発信できる、楽しみややりがいがある、信頼できる人がいる、安心できる場がある ことが大切

→ **乳幼児期からの支援の重要性** → **サンホームで大切にしていること**

参考
アーチル研修資料

2. 仙台市サンホームの概要

日々定員 30名
(年間登録児 最大60名)

月・水コース 3クラス

火・木コース 3クラス

*金曜日は保護者勉強会 (月数回)

スタッフ

園長 1名 主任 1名 副主任 1名

保育士 9名 作業療法士 1名

看護師 1名 地域相談員 2名 (兼務1)

親子通園施設
1クラス 児童10名MAX+保護者
職員3-4名

所在地:
仙台市泉区将監
8丁目9-1



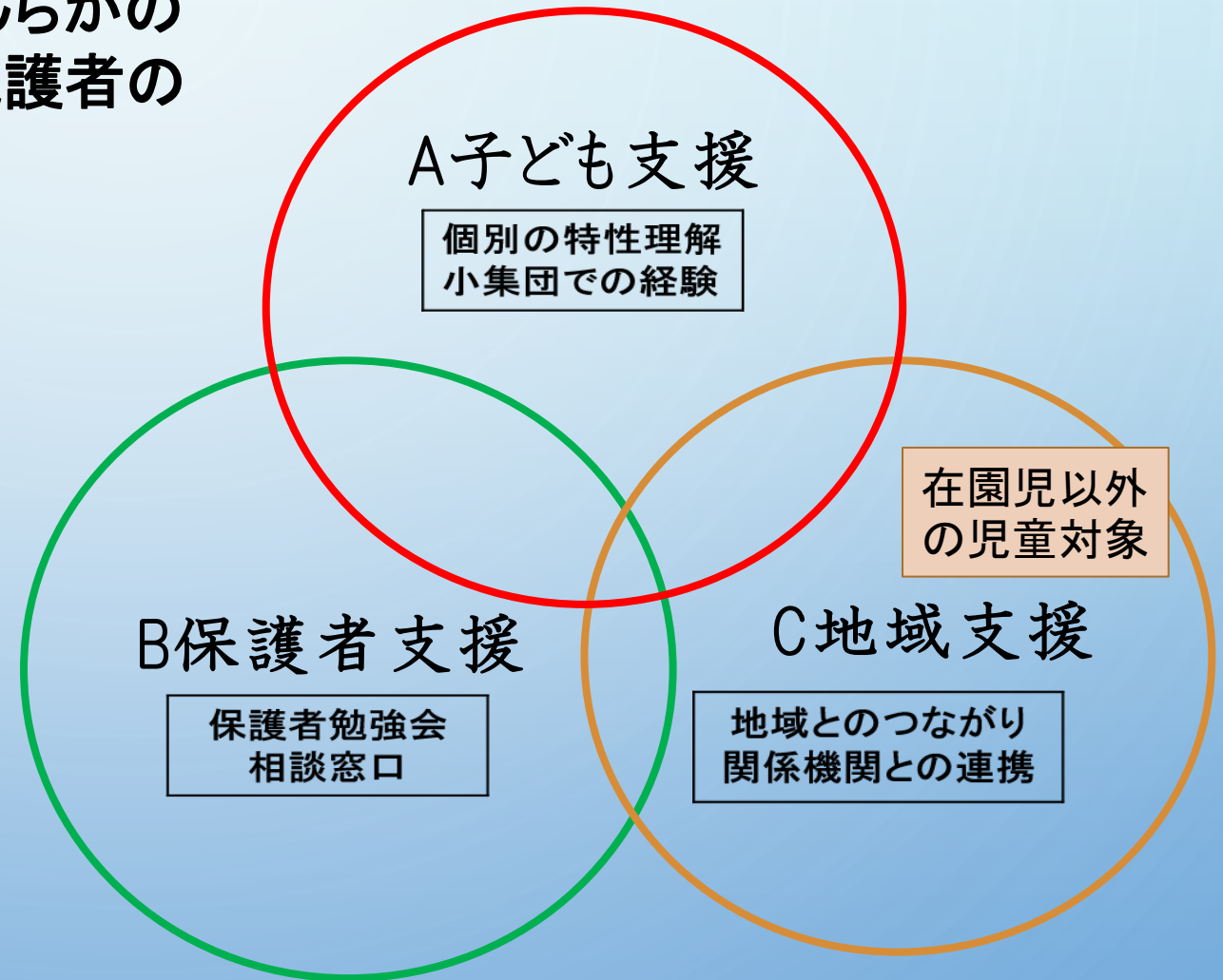
昭和50年に仙台市が開設し 児童デイサービスを実施
平成23年度から仙台市の指定管理者として
特定非営利活動法人 グループゆうが 管理運営。

仙台市サンホーム

支援の3本柱



遊びや活動を通して、発達になんらかの心配のあるお子さんの育ちと、保護者の子育てのサポートをするところ



サンホームで大切にしていること

サンホーム保
護者勉強会資
料より

サンホームでは、さまざまな活動をとおして、子どもたちの発達を保護者の方と一緒に確認しながら、幼児期に大切な「こころ」と「からだ」の成長を促すとともに、**自己肯定感を育て、いきいきとその子らしく過ごせるようになることをめざしています。**

* 自己肯定感とは・・・

「自分は大切な(かけがえのない)存在だ」と思える心の状態。どんな時にも「自分は 愛されている」という実感を子ども自身が持てるようになることは、すべての発達の根源であり、それが『生きる力』の源となります。

① 生活リズムを整える

見通しをもって生活することで安心感が生まれる

② 好きなあそびを見つける

じっくりあそぶことで達成感や満足感を得る。それがあそびへの期待が高まることにつながる。

③ 安心できる人を見つける

楽しいあそびを人と共有することで人との信頼感が育つ→人との関わりが広がる・深まる。

④ 自分で選ぶ、決める、考える

納得して行動することで主体性や自発性が育ち、意欲的な活動につながる。

サンホーム 《一日の流れ》



9:30 登園



バスまたは自家用車で登園します。

自由あそび



視聴覚教材を使って楽しくあつまりをします。

10:20 朝のあつまり

設定あそび



11:30 昼食(お弁当)

自由あそび

子どもたちの興味や発達段階に合わせていろいろな素材を使ったあそびを工夫し、親子で楽しみます。

13:00 帰りのあつまり

13:30 降園



好きなコーナーであそびます。

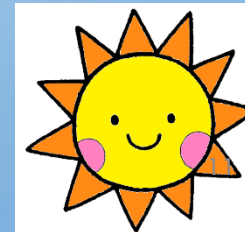
朝のあつまり

いろいろなあそびの中で、一人ひとりの得意・不得意などを見極めながら、心と体の発達を促し、自己肯定感を育みます。



みんな大好き！
見るあそび！

今日もみんなで楽
しくあそぼうね！



設定あそび



ふわふわさかな

さまざまな素材や要素を取り入れ、あそびそのものへの興味を引き出し、好きなあそびを通して達成感を感じることを大切にしています。



寒天あそび



スカーフあそび

ママと一緒に！
楽しいな～

いないいな～い
ばあ！



絵の具あそび

自由あそび



お友だちと一緒に楽しいね！



様子を見ながら母子分離をして、スタッフや友だちを意識しながらあそぶことで、よりお母さんへの愛着を深め、人への興味を広げていきます。



3. 子ども支援

- 自己肯定感は、社会の中でその人らしく生きていくための要
- 両親が子どもの発するサインに敏感で、温かくいつも同じように応えてあげると、子どもは親を「いつでも頼れる存在」であり、「刺激と満足の源」とみるようになります。このような相互関係を通して、子どもは「自分は愛されている価値がある存在なのだ」と認識して、自分を受け入れる肯定的な自意識を持ちます。(2004, ヘネシー・澄子)



母子の愛着形成そして自己肯定感を育む
難しさの背景

- ◆ 子どもの共感性の持ちにくさ・感覚過敏・人より物に対する興味関心の強さなど
- ◆ 子育て環境・親子の関係性の変化
 - ・きょうだい・親戚等の子育て体験している保護者が少ない
→あやせない、あそばせられない、どう声がけしていいかわからない
 - ・スマホ子守り
 - ・子どもとの生活を受け入れられない、自分の時間がほしい、離れたい
→うるさい、言うことをきかない、困った子

母子療育における保育士等スタッフの役割

① 基盤となる愛着
形成をしっかりと結
べるように



③ こどもの特性や
強み、弱みの理解

② こどものこころの通
訊・代弁
(行動の意味の理解)

* 行動を読み解く難しさ
→ おひさまタイムでスタッフ全
員で検討

④ 子どもへのかか
わり行動のモデル
環境調整 (構造化
の提案)

保育士
(作業療法士)

サンホームの子どもたちのこころの声

それはやりたくないよ。ほっといてよ。無理じいしないで

ぼくのおもちゃをとっちゃだめ！貸したくないよ！

大好きなあそびだからやめたくなかった。もっとやりたいよ。

おもしろそう、わたしもやりたいからそれがほしいよ

ぼくのやりたいようにやらせて！ぼくはこんな風にあそびたい

やれっていわれても意味がわかんない
どうすればいいの？

わたしのこと見ないで触らないで、あっちいけ！

～子どものこころの声を拾い上げるアンテナを高くする～



小集団の療育の中での成長



母とともに安全・安心な関係づくり、発信しやすい環境づくり

子どもの安全基地としての母子関係の構築（愛着形成）

- ・子どもの思いや行動の背景にある気持ちを汲む
- ・思いに沿った対応を母と考える

母以外と安心して遊び、心地よい空間・時間を楽しむ

- ・好きな遊びを思う存分遊ぶ
- ・やりたいこと、ほしいもの（自発性）を大切に代弁

身体全体や感覚を使った遊びを楽しむ（もっとやりたいを引き出す）

- ・みる、きく、さわる等感覚遊び
- ・からだを動かし、ボディイメージを育てる

見通しを持てる環境で切り替えができる

- ・満足できるまで遊ぶ
- ・切り替えのための個別ツール、環境の構造化
- ・感情のコントロール

個別的な支援

小集団ならではの対人支援

友だちとのやり取り、順番などのルールをわかっていく

- ・相手との交渉、折り合い
- ・ルールを知り、我慢する

新しい友だち、先生など少し違った環境にも慣れる

- ・新しいお友だちの受け入れ
- ・少しずつ子どもの世界を広げる

子ども同士のやり取り、一緒に過ごす経験をすすめる

- ・他者を意識
- ・一緒にいることがこちよい

★ありのままの自分が受け入れられ、いつも家族や保育士から愛されていることを実感

★自発的にやりたいことが言葉やしぐさ、身振りなどで表現できる

★楽しいことで上書き保存

個別療育（おひさまタイム）とケースカンファレンス ～行動から特性を把握・学び合う～

【クラス担任・おひさま専任】

- 子どもの日常療育での気づき
(子どもの課題)
- **アセスメント**
(アセスメントシートの活用・冰山モデル)
- 行動場面のビデオ撮影
- アセスメント修正と追加

【職員全員】

- ケースカンファレンス(GW)

アセスメントの共有 (動画を使って)

抱えている課題の共有
子どものこころの声

(こんなのやりたくないよ！)

(何がなんだかわかんないよ！)

支援の具体策の検討

(興味のない活動→好きな活動)

(本人の納得・理解の促進→わかるツールや方法)

12

実物と写真のマッチング



- ・実物の名称(理解・表出)
- ・実物と写真マッチング
(認知)
- ・写真「～ください」
(受容性・認知)

【クラス担任】

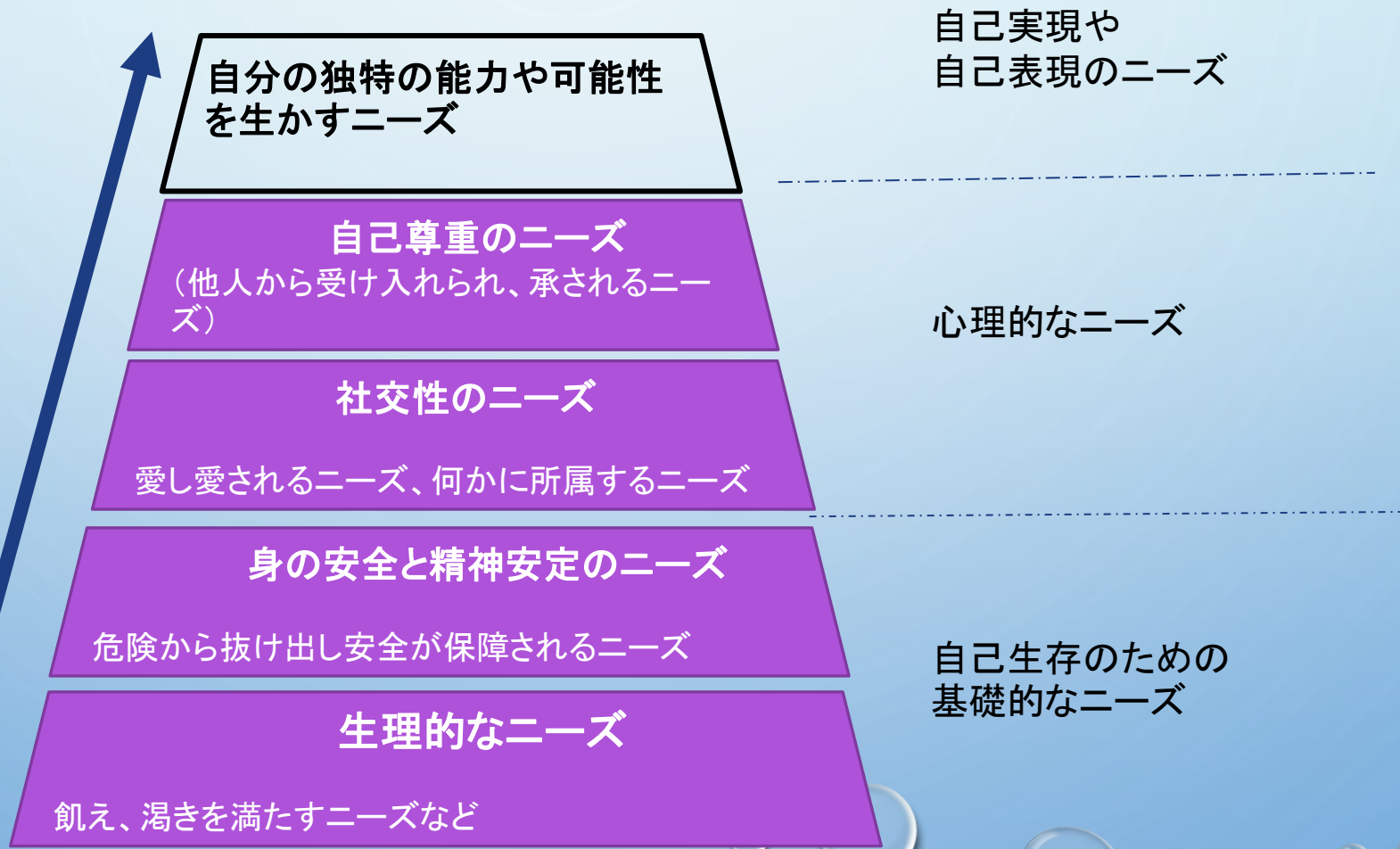
- **通常の療育の中での実践**

【職員全体】

- **ケースカンファレンスでの実践評価
(報告)・再アセスメント**

4. 保護者支援

マズローのニーズのピラミット



サン
ホームで
の母子療
育がその
基盤作りを
担う

サンホームの保護者のこころの声



「やりとりができないからかわいと思えない」

「なんでできないの？」
(他児との比較)

「なぜわが子が」
(自分の身に振り落ちた不幸？
ショック)

「障がいがあるとは信じたくない」

「思うようにいかない、大変すぎて疲れる」
*1日振り回される
(パワーレス)
子どもにのみエネルギー投入(視野が狭くなる)



「ひとの目が気になる」
(内なる偏見?)
「他の親にはわかってもらえない」(疎外感)
「暴力的な子とみられる」
(引け目)

「自分の受けたしつけとの違いに悩む」
(自信がない)

「やりたかった仕事ができない、でも諦めたくない」
(自分の描いていた人生の喪失)

「見えない将来が不安でたまらない」
(節目ごとの落ち込み、回復が遅れる)(体調不良やうつ状態・・・)

保護者支援のめざすもの



- (前向きな子育て) 保護者が障害を受け止める過程の中で、前向きな子育てができる。
- (具体的な対応法) 子どもの特性や強みを知り、「なんとか対応できる」という実感が得られる。
- (見通し) 「どんな人に育ててほしいのか」先を見据えた子育てを考えられる。
- (伝える力) 次の進路(幼稚園や保育園、小学校)にわが子の特性を伝え、自らサポーターを獲得できる。
- (健康) 保護者自身のこころの解放、メンタルヘルスの低下を予防。
- (仲間づくり、孤立化予防) ピアカウンセリング、メンター
- (いきがい、保護者も一人の人間として生きる) 子育てを通して保護者自身の人生の意味づけ。(親の成長、エンパワメント)

保護者支援の内容



■ 療育中の保護者の心理的な動揺への寄り添い

■ クラス懇談会、家族参観・懇談会

■ 保護者勉強会(母親、父親)

■ 家庭訪問、進路面談

■ 個別療育「おひさまタイム」

一人ひとりの特性に配慮した子どもの捉え方(アセスメント)と対応法の共有

■ 個別プログラムの作成(半年ごと)

生活・あそび・コミュニケーション面の支援の進め方の共有

保護者が子どもの特性を理解し、受け入れ、前向きにかかわれるように！

そして、おだやかで暮らしやすい青年に育てる

家族参観・家族懇談会

子どもたちがいつも楽しんでいるあそびを紹介したり、成長と一緒に確認します！



パパとおすもう！
はっけよいのこった！

母親勉強会

- ・サンホームで大切にしていること
- ・卒園後の進路について
(幼稚園・保育園・認定こども園)
- ・プラス支援(特別支援)保育について
- ・作業療法講話「**こころとからだを育む**」
- ・先輩お母さんの話
- ・成人した当事者の方の話
- ・ことばを育む
- ・**嘱託医の講話「我が子の捉え方」**
- ・自己肯定感を育むということ
(ペアレントプログラムの考え方)

父親勉強会

- ・子どものあそびと発達について
～サンホームで大切にしていること～
- ・発達支援にかかわった嘱託医の講話
- ・先輩パパのお話
- ・グループワーク



進路面談を通して 進路選択の考え方

子どもの視点からの進路選択
⇒自己肯定感を大切にした選択

- ・当初は幼稚園しか考えていなかったけれど・・・
子どもの特性を知り、子どもが過ごしやすいところにしたい。
- ・子どもの興味関心にあった場所で過ごさせたい。
- ・子どもの特性にあった支援が受けられるところにしたい。
* 特別支援保育の選択(3人に1人の加配)
- ・小規模の集団から慣らしていきたい。
- ・子どもが楽しんで通えるところがよい。

親の願い優先の進路選択
⇒ハードルが高くなる選択

- ・できれば普通に近づきたい。
- ・学習や英語を学べる幼稚園へいかせたい。
- ・特性はわかっているけどチャレンジさせてみたい。
- ・集団に入ればなんとかなる、言葉も覚えるだろう。
- ・祖父母や父親が幼稚園を強く進める。
- ・サンホームに通っていたことを知られたくない。

半年未満の保護者が多い

子どもの状態像と
進路先とのギャップ

(子どもにとって)
大きな負荷
無理を強いる



子どものストレス大



行き渋り
家庭でのかんしゃく増加
さまざまな不適応行動の出現



地域支援でのフォロー

*** 将来への影響
自己肯定感の低下が心配**

5. 地域支援 ～つながる支援～

児童発達支援センターとアールを中心とした地域での支援体制



移行支援と卒園後のフォロー支援 ～クラス担任や地域支援相談員(社会福祉士)～

【在園中】

- 進路選択のための勉強会
 - ・進路先の種類と特徴、どう選べばよいか、何を大切にするか
 - ・障害児保育(プラス支援保育)・近隣保育園長からの講話
 - ・先輩ママや成人当事者の話
- 進路決定のための個別面談
- 保育所(園)やなかよし学園の見学同行
- **卒園時、子どもの状態像と支援の引継ぎ(まとめ文書の作成)**

新しい環境に早期に適応できるように特性や配慮の仕方を伝達

【卒園後】

- **卒園後3～4ヶ月後の進路先訪問(前後で保護者とのコンタクト)**
- 卒園児保護者の就学に向けての勉強会・茶話会

適応状況の把握と進路先への支援

地域の支援者

支援者からの相談
未診断、療育を経ていない気になる
子どもについて

子どもへのかかわり方と親への説明
の仕方

ことばの遅れ
集団の活動に入れない
他児に手をだす
感情コントロールが困難

虐待児童

発達の心配があるが自宅では特に
困っていない(親が気づいていない)

親が子どもの発達の心配があること
を認めたくない

研修の企画

保育所(園)・幼稚園の支援者向け地域セミナー

「気になる子のからだとあそび～実践編～」



場所: 仙台市サンホーム

内容:

サンホームで大切にしていること
感覚統合の考え方
あそび あれこれ
自己肯定感の土台となるあそび

対象: 幼稚園・保育所・こども園等の職員

講師: 外部講師、サンホーム 作業療法士、保育士等

関係機関との協働・連携・ネットワーク

☆ 地域コーディネーター連絡会議

北部・南部アーチルと市内11か所の児童発達支援センターで活動内容の報告・検討・情報交換・連絡調整など

☆ 子育てプラザ「のびすく泉中央」との協働

子どもの発達に不安がある親子が集まり、スタッフや先輩ママと一緒に話したり、同じ立場の親子と出会う場所

☆ 基幹保育所子育て支援センター 育児講座での育児相談

★ 支援者会議(アーチル・家庭健康課・保育所・医療機関) 家族機能の課題を抱える、保護者が特性があり子育てに困難さがある事例

☆ 将監児童館とのケースカンファレンス (年数回)

児童クラブの小学生の支援
・・・地域支援員 & 成人担当相談員

【児童館スタッフから】

児童館での過ごしの中で指示・理解が通らないのはなぜか？
子どもをどうとらえ、どんな配慮と工夫が必要か？

【サンホームから】

支援が必要な存在として認識
特性の理解と支援の工夫
(興味にあったあそび・過ごし)

6. まとめ 地域支援から見えてきたこと

1. 「できる・できない」という視点のみに焦点化されがち (身辺自立や友だちとの交流)

大人が認識する問題行動？とその改善にのみとられがち、特性をもつ子どもとして捉える視点が大切。困っているのは大人ではなく子どもである。氷山の下の背景や理由を考える。

2. 定型児の発達から考えた支援が先行しがち

通常保育(幼児教育)での目標と特別な配慮の必要な児への目標が混乱

「特別支援の関わりが逆に、自主性を阻害することにならないか？」と支援を躊躇

3. 一歩突っ込んだ支援への認識の乏しさ

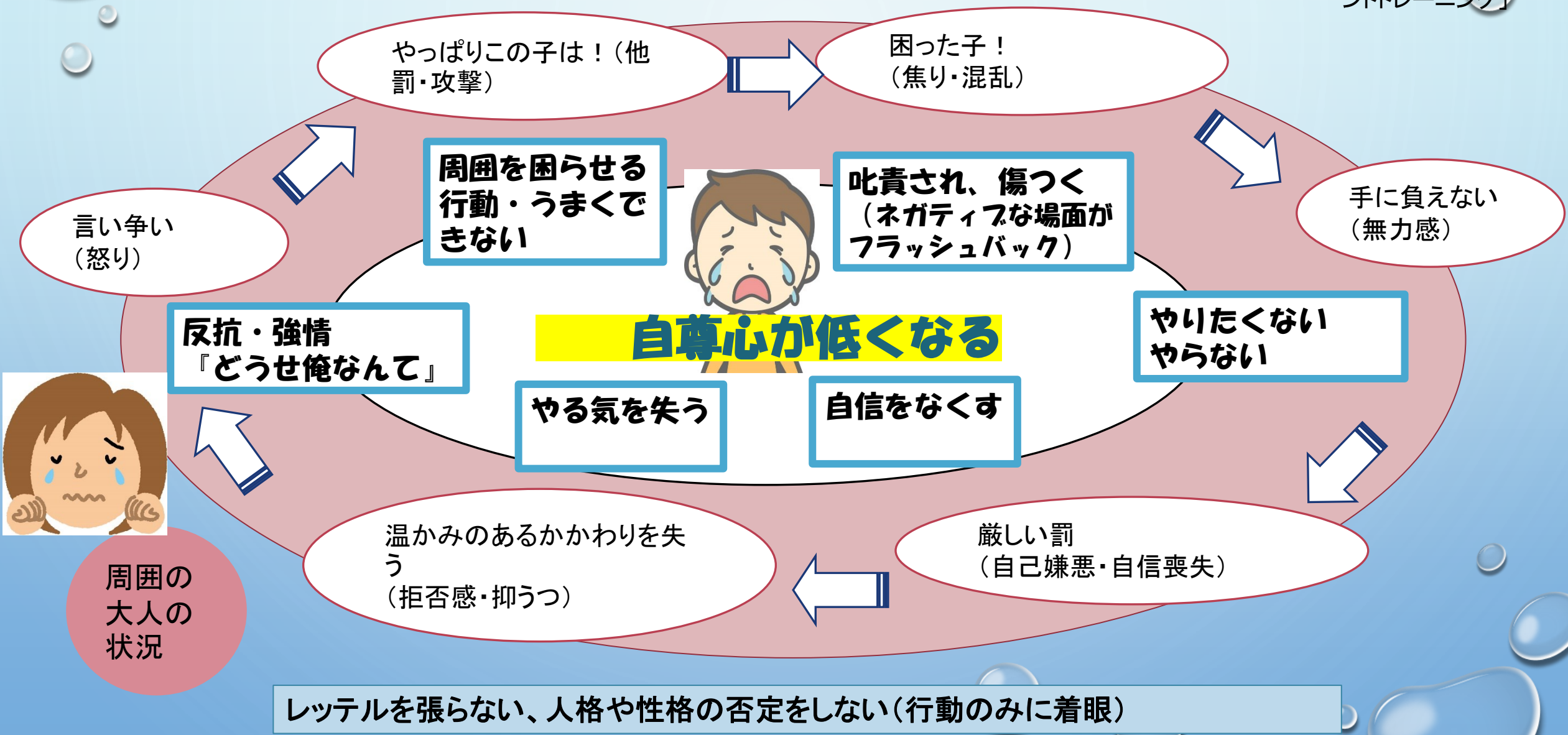
逸脱行動がなく、指示が入ると、それ以上の支援が必要に気づきにくい。言語表現が難しい、友だちの思いを読み取れない児の場合、将来のコミュニケーション面の課題を考慮した支援が必要。

4. 予防的な介入の視点に乏しい(負のスパイラルを防ぐ)

心に刻まれた傷(いじめやからかい)はその後の人間関係にも影響を与える(フラッシュバック)二次障害を引き起こす可能性に早めに気づくことが大切。

負のスパイラルを招くのは大人の対応

参考: 上林康子監修
中央出版
「発達障害のペアレントトレーニング」



レッテルを張らない、人格や性格の否定をしない(行動のみに着眼)

児童発達支援センターから見た課題

登園児の療育

【療育のマンパワーの確保と支援側のスキルアップ】

- 年々増加・深刻化
- ✓ 愛着障害と虐待の増加
- ✓ 母のメンタル疾患
- ✓ 家族の養育力の低下(ネグレクト的状况)
- ✓ スマホ・メディアによる子守

卒園児等の地域支援

【保護者の障害等の受容と発達に応じた環境・場所の選定】

- ✓ 親の願いと子どもの発達段階・状態像とのギャップ
- ✓ 幼稚園それぞれの教育方針と子どもの特性のアンマッチ

地域支援者へのサポート

【関係機関の障害特性理解とスキルアップ、継続的な訪問支援】

- ✓ 集団生活における予防的介入の浸透↓
 - ✓ 組織内の意思疎通の困難さ
- 研修体制の工夫
(セミナー+見学実習)

プラス支援保育制度の充実

【制度や仕組みにおける柔軟な配慮】

- ✓ プラス支援保育枠の不足
(病児や医ケアの受け入れ、保育士不足の解消)
- ✓ プラス支援保育、入所条件の配慮
(病弱な子どもたちを抱えての就労猶予期間)

私たちの仕事の先にあるもの

子どもの小さなチャレンジを応援

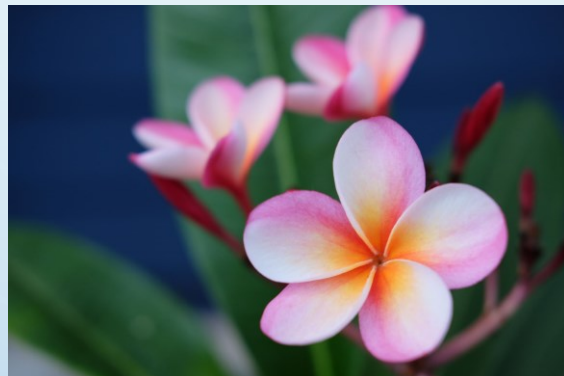


自己肯定感と自主性の芽生え

自己表現と発信はその子の自主的な活動の入り口

認め、認められる関係性の体験

(隔たりのない)人や社会を信じる力を育む



特性に配慮した療育
地域研修セミナーでの発信



多様性を受け入れていく実践の場

人々がより寛容性をもち、多様性を受け入れていける社会づくり=ASDを持ちながらも生きやすい社会へ

保護者勉強会

「その子にとっての幸せとは何か、何を願っているのかをともに考える」



先を見通した子育てとその入り口

保護者支援を通して、マルトリートメントからくる行動障害を減らしていく

学生実習の積極な受け入れ
保育所・幼稚園の訪問と支援者支援



人づくりに貢献

→さまざまなところにタネまき

この子らが社会の中で優しい、適切なサポートを受けられ、のびのび育っていけるように！

参考 肯定的な自己意識を育む

1
モデリング

両親(もしくは愛着の絆を結んだ大人)の態度や行動を手本として学ぶ

2
インターナリ
ゼーション

両親(もしくは愛着の絆を結んだ大人)の価値概念や行動を自分の中に取り入れる

3
シンクロニシ
ティー

早期の愛着形成時に、親と同時性や一体感を体験し、自分を癒すことを学ぶ

4
レセプロシ
ティー

早期の愛着形成時に、親と相互に関わり合うことを体験として、人との関係づくりを学ぶ

5
ポジティブ・セン
ス・オブ・セルフ

肯定的な自己意識を育む

参考 思春期より前の支援

本田秀夫著
「自閉症スペクトラム」より

①保護的な環境を提供すること

荒波にもまれるとトラウマとして記憶され将来フラッシュバックを起こしやすくなる

保護的な 環境で育つと自信がつく

②得意なことを十分に保障すること

できて当たり前ではなく、得意なこと、ほかの人と違うこそほめる

③苦手なことについて特訓を極力させないこと

二次的な問題の発生を高める。

思春期以降に自発的な動機付けがでてきてから本人が必要と思うことには勝手に特訓を始める

④大人に相談してうまくいったという経験をもたせること

「それぐらい自分でやいなさい」と突き放すのではなく、

何ができないのか、何をしてほしいのかを丁寧に確認し、子どもに寄り添いながら、

一緒に問題を 解決

参考 周囲の人たちの接し方

～身近な人たちが特有の思考や感情の様式を学ぶ～

①先に本人の言い分を聞く

常識とは違うパターンや法則であっても一貫して本人が大事に思っていることであれば傾聴すべき

②命令ではなく提案する

こちらの意見を述べる時は意見を押し付けたり、説得にかかったりしない

③言行一致を心がける

ASDの人は、論理的に筋が通っている人を信用、言っていることとやっていることの矛盾がない

④感情的にならない

混乱を招かないよう大事なメッセージは絶対的に感情的にならない

⑤情報を視覚呈示する

直感的にわかると思うことでも実物や絵、文字などの視覚的情報の明示

⑥目に見えにくいものを言語で構造化する

曖昧を避け、「あとでね」ではなく、「10分後にまた来てください」

⑦こだわりはうまく利用する

「こだわり保存の法則」日常生活や趣味の中にこだわり対象が埋め込まれるように